

2026年3月27日

横浜ゴム、第12回「生物多様性パネルディスカッション」を開催

横浜ゴム（株）は3月6日、第12回「生物多様性パネルディスカッション」をオンラインで開催しました。今回は「地域と企業の連携で取り組むネイチャーポジティブ※」というテーマのもと、パネリストに横浜国立大学教育学部・総合学術高等研究院教授の倉田薫子氏、司会進行役に（株）エコロジーパス取締役で江戸川大学講師の北澤哲弥氏をお招きしました。当日は、横浜ゴムグループ社員をはじめ、行政や企業、NPO や市民活動団体など121か所から多数の方々に参加しました。

※生物多様性の損失を食い止め、回復軌道に乗せるという考え方。

「生物多様性パネルディスカッション」は、生物多様性保全の大切さを考える機会として毎年開催しています。今回のイベントでは、倉田氏の「生物文化多様性の視点でウェルビーイングな社会づくりを目指す」という基調講演に続き、横浜ゴムグループの生物多様性保全活動を紹介。具体的な取り組みとして、タイヤビード※製造販売子会社である亀山ビード（株）が三重県亀山市と支援協定書を結んで行っている、自然共生サイト「亀山里山公園」での外来種駆除や園内の整備などの活動を市職員にも参加いただきながら紹介しました。最後はパネリスト間での活発なディスカッションが行われ、参加者全員で生物多様性保全活動への理解を深めました。

※タイヤをホイールに固定する役割を持つリング状のタイヤ構成部材。

2022年12月の生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）においてネイチャーポジティブという新たな国際目標が示され、日本でもその実現にむけた具体的な行動計画が策定されるなど、世界的にネイチャーポジティブに向けた活動が活発化しています。横浜ゴムはこうした活動に賛同し、2023年1月より国際イニシアティブ「TNFDフォーラム」および「生物多様性のための30by30アライアンス」に参画しています。また、グローバルな植樹活動「YOKOHAMA 千年の杜」、生産拠点での水質や動植物のモニタリングと保全活動、天然ゴム農園でのアグロフォレストリーの推進、地域住民への啓発活動などを通じてバリューチェーンでの生物多様性保全に取り組んでいます。

横浜ゴムはサステナビリティ・スローガンとして「未来への思いやり」を掲げ、事業活動を通じた社会課題への取り組みにより、共有価値の創造を図っています。



倉田薫子氏の基調講演（左）とディスカッションの様子

このリリースに関するお問い合わせ先
 横浜ゴム（株）経営企画部 広報室 担当：鎌田
 TEL：0463-63-0414 FAX：0463-63-0552